



次の世代へ つないでいく

穂高神社「御船祭り」(9/26・27)

みんなの心に残る御船祭りを、来年こそは

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、地元区や氏子総代、穂高人形・御船祭保存会等と協議を重ね、古来より続く御船神事の取り止めに決定しました。御船神事の中止は古い記録の中にも記述はなく、戦中戦後の混乱期であっても行われていたので、今回の中止は本当に残念です。

御船祭りは、一年に一度きり。皆さんの心に残る行事だと思います。子どもの時に携わっているからか、安曇野を離れても毎年見に来られる方もいらっしゃいます。一年できなかったですが、また来年同じように無事に御船を奉納いただけることを願います。



穂高神社 権禰宜
穂高人形・御船祭保存会事務局
等々力 良勝 さん

納得のいく穂高人形を

力を合わせて創り上げる

御船祭りは、一年の中でも節目となる大事な行事です。地元区や仲間が団結力を発揮できる場を一年でも欠いてしまうのは、「悔しい」の一言です。

穂高人形は、師匠の技術を受け継ぎ、引き渡されることで脈々とつながってきた郷土が誇る伝統芸能です。高齢化が進んでいるので、若い人たちに一日でも早く覚えてもらいたい、という思いで今年も教室を開いています。また、他の地域から人形を展示してほしいという話をいただいているので、いまはそれに向けて準備をしています。人形の表情ひとつとっても奥が深く、一筋縄ではいきません。研鑽を積み、納得のいく人形の仕上りに近づくと、仲間と楽しみながら一年間頑張っていきたいと思っています。



穂高人形保存顕彰一眞會会長
小平教室 人形制作指導者
藤原 國廣 さん

お船祭りにかける熱き想い

地域愛を育む祭り「アオリ」で地域に元気を

重柳八幡宮例大祭のお船祭り（豊科重柳区 9/19・20）は、大河ドラマなどをイメージした人形を飾り付けたオフネを前後に大きく揺らす「アオリ」が特徴です。あらゆる困難を乗り越えることや豊作の祈りなどが込められており、激しく 200 回以上煽るオフネの中で子どもたちはお囃子を奏でます。

お囃子を担うのは地域の小学 5・6 年生で、約 3 週間、大人から学んで毎晩練習を重ねます。子どもの頃からお祭りを通して地域の人と触れ合い、礼儀や伝統を学ぶことで、地域愛が育まれているように感じます。大人になっても地域の催しに積極的に参加する人が多いのは、このお祭りが関係しているかもしれません。

今年はオフネを作りませんが、宵祭り・本祭りで子どもたちのお囃子を披露します。過去にはオフネの曳行が数年間途絶えましたが、保存会の発足により復活しました。保存会や子どもたち、地域の皆さんの協力によって受け継がれてきたお祭りだと思います。これまでの伝統を絶やすことなく、地域の皆さんに元気を与えられるよう、来年はお祭りが開催できることを願います。



重柳八幡宮祭り保存会 会長
井口 文秀 さん

紫石会の絆・団結は強固 一度甦らせた伝統は絶やさない



中萱紫石会 会長
岩井 亥佐男 さん

熊野神社例大祭でのお船祭り（三郷中萱区 8/29・30）は、県内最大と言われる全長 13.3 m、高さ 6.3 m の大きなオフネに人形と飾りつけを行う、雄大なお祭りです。明治 9 年から昭和 43 年までは人形を飾る現在の形のお祭りが行われていましたが、青年団の負担が大きく翌年からは神事のみ催行に…。そこから 13 年の年月を経て、熊野神社大遷宮祭を機に、オフネの曳行が復活しました。

今年、明治安田クオリティオブライフ文化財団が実施する地域の伝統文化保存維持費用助成事業に応募し、138 件の中から 42 件のうちの 1 つに選ばれました。活動が認められたことで、中萱の伝統文化、お祭りに対し改めて誇りを持つことができました。これからは、区民の安全と健康、五穀豊穡を願うお船祭りを大切に守り継いでいきたいです。

今年は、紫石会の結成 40 周年という節目の年でした。また、来年は熊野神社が 20 年に一度の式年遷宮を迎えます。おめでとう出来事が続くので、今年できなかった分の悔しさを来年に蓄え、盛大にお船祭りを開催できればと思います。

世代の垣根を越え、“みんなでやる”伝統を残したい

荻原神社秋祭りのお船祭り（明科荻原区 10/11・12）は、市内有数の大きさを誇るオフネの上に、毎年資料集や大河ドラマなどを参考に、実行委員会の飾り担当が創意工夫しながら場面を再現しています。人形には、昭和初期に松代町（現長野市）の武家から購入した鎧や兜を、現在も補強しながら使っています。また、夜に曳行されるオフネのフナベリに並ぶ裸ろうそくがきらめき、実に幻想的な演出をしてくれます。

私たちにとってのお船祭りは、荻原区の古き良き伝統です。平成 15 年には、約 40 年ぶりに浦安の舞が奉納され、現在も小中学生によって続けられています。また、地域を離れた人も祭りを機に帰省してくるなど、みんなが集まる年中行事として定着しているのではないかと思います。

今年できない分、予算を飾り物やお船の修理に充て、来年の祭りにつなげていきたいです。考え方も多様化する現在、世代の垣根を越えてこの祭りを残していきたいです。



荻原区長
唐沢 良一 さん
おはやし部門
山崎 正博 さん
前区長
小林 隆夫 さん